

まつえ「夢☆未来」パスポート 活用の手引き

松江市教育委員会

1 「キャリア・パスポート」とは？

- 平成 28 年 12 月に中央教育審議会答申において、小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材を作成し、活用することが効果的ではないかとの提案がなされました。
- 平成 29 年に告示された新学習指導要領の総則においては、児童生徒が「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」と明示されました。
- さらに、特別活動編では「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童(生徒)が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」と定められています。
- そして、文部科学省より各都道府県教育委員会などに向けて事務連絡『「キャリア・パスポート」例示資料等について』が平成 31 年 3 月 29 日付で出されました。それによると、前述の「活動を記録し蓄積する教材等」を「キャリア・パスポート」と呼ぶこととし、その目的と定義を次のように説明しています。

● 「キャリア・パスポート」の目的

小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの。
教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

● 「キャリア・パスポート」の定義

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

2 松江市の基本的な考え方

(1) 松江市小中義務教育学校 キャリア教育目標

ふるさと松江を愛し、夢と希望をもち、力強く未来を切り拓く児童生徒の育成

(2) 重点

- ① 小中学校の発達段階に応じた系統的な指導により、各教科・領域や行事など全教育活動を通して基礎的・汎用的能力(P.8参照)を育成する。
- ② 「社会体験学習」や「地元職業人出前授業」など地域ぐるみのキャリア教育を通して、「生きること」「学ぶこと」「働くこと」「ふるさとのよさ」を学び、豊かな人間性や社会性、主体性を育成する。

(3) 本市における「キャリア・パスポート」の考え方

本市では、従来から取り組んでいる小中一貫教育を活かし、地域ぐるみのキャリア教育を推進しており、「キャリア・パスポート」の活用にあたっては、次の点を基本的な考え方としていきます。

① 「たての一貫教育」を活かして・・・

小学校から中学校、さらには高等学校へと発達段階に応じた系統的なキャリア教育を進めるために、各学校、各学園において「キャリア・パスポート」の活用方法を共有することが有効です。

例えば、基礎的・汎用的能力(P.8参照)をもとに、各学校、各学園で「めざす子ども像」や「身につけさせたい力」を明確にしてから、それを共有し、連携してシートを作成することなどが想定されます。各学校、各学園内でキャリア教育の意義の共有化や情報交換を行うとともに、小中それぞれの発達段階に応じた「キャリア・パスポート」の活用により、各教科・領域や行事など全ての学校教育活動を通して、基礎的・汎用的能力を育成していきます。

② 「よこの一貫（環）教育」を活かして・・・

キャリア教育は全ての教育活動を総括する教育で、地域ぐるみのキャリア教育はふるさと教育とつながるものです。地域の「ひと・もの・こと」との関わりや体験学習を通して「生きること」「学ぶこと」「働くこと」「ふるさとのよさ」等を学び、豊かな人間性や社会性、主体性を育てていきます。

例えば、家庭や地域での学びや日々の生活、様々な学習活動などについて、保護者や地域の方からコメントをワークシートに記入していただくなど、多様な関わりが生まれるよう工夫することが考えられます。

「キャリア・パスポート」は、児童生徒の学びを学年や校種を超えて、生涯にわたる学びのつながりを見通しながら、自らの学習の在り方を展望していく具体的な手立てになります。幼児期から義務教育9年間を見通した「たての一貫教育」、学校と家庭及び地域が連携・協働した「よこの一貫（環）教育」の体制を活かし、児童生徒のキャリア形成を図っていくための有効なツールとして活用していきたいと考えています。

松江市では、小中一貫教育を活かした地域ぐるみの「キャリア教育」の体制を基盤とし、各校において、この「キャリア・パスポート」を有効に活用・運用し、一人一人の子どもたちにとって夢や未来へとつながるパスポートとなるようお願いを込めて、「まつえ『夢☆未来』パスポート」と呼ぶこととします。

(4) 「まつえ『夢☆未来』パスポート」用シートの作成にあたって

3年生 () のふりかえり

書いた日 れい和 年 月 日 ()

3年生で がんばったことを ふりかえりましょう。

① 自分の気持ちを、友だちに分かりやすく 伝えることができましたか。	😊	😊	😊	😊	😊
② すきではないことや、苦手なことでも、自分から進んですることができましたか。	😊	😊	😊	😊	😊
③ 知りたいことがあるとき、自分から進んで先生に質問したり、本で調べたりできましたか。	😊	😊	😊	😊	😊
④ しょう来のゆめや 目ひょうに向かってがんばったり、勉強のやり方を くふうしたりできましたか。	😊	😊	😊	😊	😊

学習

生活

おうちや地いき (手つたい や 悪いこと など)

★**なりたい 自分に なるために**
4年生で できるようにになりたいことや がんばりたいことを書こう。

★**4年生になった時の先生へ** お手紙を書こう。(今の自分のこと、楽しみなことやめいなことなど)

まず、各学校が教育目標、めざす児童生徒像等に対応した「身につけさせたい力（基礎的・汎用的能力）」等を明確にし、設定する必要があります。その際、その「身につけさせたい力（基礎的・汎用的能力）」等が、発達段階に応じて、学年間で系統的にシートに反映されることが望ましいです。

基礎的・汎用的能力をどのようなまとまりで、どの程度身につけさせるかは、各学校、各学園の特色や児童生徒の特性により異なります。4つある基礎的・汎用的能力のどれに分類させるのかを整理した結果、各能力にアンバランスが生じたとしても、それが教育目標、めざす児童生徒像等に基づくものであれば、その修正を図る必要性は低いと考えます。

設定した目標や年度初めに記述したことをもとに、自己評価できる項目を年度末には作りましょう。

各シートには、担任や保護者のコメントを入れるなど、対話的な関わりを大事にしてください。

自分のキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価するためにも、小学校から中学校、高等学校まで、その後の進路も含め、学校段階を超えて活用できるようなものにするのが大切です。

そのため、各学園（小学校間）で共通のシートを準備する、あるいはシートの中に共通の項目を設けるようにすることが有効です。国や教育委員会等が提供する各種資料等を活用しつつ、各学校、各学園の実態に応じ、各学校、各学園で連携しながら、柔軟に工夫して作成してください。

(5)「まつえ『夢☆未来』パスポート」を活用する意義

① 児童生徒にとって

学びを記録し蓄積することで、各教科等の学びと特別活動における学びが往還し、自己のキャリア形成につながっていき、自分が何に興味を持ち、何に力を入れてがんばってきたか、得意なことは何かなど自分では意識していなかった「自分の姿」に気付くことができます。



また、記録・蓄積したものをもとに、教師や保護者、学級の仲間と考えを共有し振り返ることで自己理解につながります。さらに、仲間のシートを読んで他者を理解することも、さらなる自己理解を促す大切な要素になります。ただし、仲間のシートを読み合う活動は、発達段階や学級・児童生徒の実態に応じて行ってください。

また、松江市例示のシートには、教師や家庭からのメッセージ欄を設けていませんが、児童生徒に寄り添ったメッセージが自己肯定感を高めることにつながります。空いている部分や新たにメッセージ欄を設けたりするなどして、必要に応じて大人からのメッセージを残すように心掛けてください。

② 教師や保護者にとって

記録・蓄積したものをもとに教師や保護者が児童生徒と対話をするすることで、これまでの学びや一人一人の児童生徒の様々な面に気付き、知ることができ、個に応じた指導・支援に役立てることができます。

具体的には、教育相談や面談、家庭訪問等で「キャリア・パスポート」を活用することで、児童生徒、教師、保護者のそれぞれの間で、「これまでの自分」と「これからの自分」などについて対話ができます。

中学生になったら、英語が楽しみだと書いてありますね。

本当ですね。私も知りませんでした。

また、松江市例示の各学年末に作成するシートの中には、次学年の担任に対する手紙やメッセージを書く欄を設けています。担任にとっては、子どもとの出会いの前に、進級への児童生徒の思いを知ることができ、児童生徒理解につながります。



③ 学校や学園にとって

各学校の各段階における学習や生活を振り返って記録・蓄積していくことにより、発達の段階に応じた系統的なキャリア教育を充実させることとなります。また、各学校、各学園内で「身につけさせたい力」や「めざす児童生徒の姿」等を明確にしたり、共有したりすることで、各学園内の連携・協働を深めていくことができると期待されます。



3 参考資料

・島根県と国のキャリア・パスポートに関する資料については、下記に掲載しています。

【校務GW>ドキュメント管理>学校教育課>小中一貫教育推進係>キャリア・パスポート関係】

・EIOS 島根の教育情報 Web <http://eio-shimane.jp/document/kyaria/kyaria-pass/>

【参考】

「基礎的・汎用的能力」を構成する4つの能力

【人間関係形成・社会形成能力】

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

(例) 他者の個性を理解する力、チームワーク、コミュニケーション・スキル、リーダーシップ等

【自己理解・自己管理能力】

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

(例) 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、主体的行動等

【課題対応能力】

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

(例) 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等

【キャリアプランニング能力】

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

(例) 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等